

11. インスリン依存型糖尿病（1型糖尿病）の発症と関連する新しいミトコンドリアジェノタイプ  
（糖尿病センター）内潟安子・岡田泰助・三浦順之助，岩本安彦  
座長 山内克巳（消化器内科）
12. CMLにおけるBCR-ABL oncoprotein 情報伝達の解析  
（第二病院内科）川内喜代隆・小笠原壽恵・大川真一郎
13. 強皮症の肺高血圧症におけるアドレノメデュリンの意義  
（<sup>1</sup> 膠原病リウマチ痛風センター，<sup>2</sup> 国立療養所村山病院，<sup>3</sup> 青山病院循環器内科）  
南家由紀<sup>1,2</sup>・小竹 茂<sup>1,2</sup>・赤真秀人<sup>1</sup>・島本 健<sup>3</sup>・原まさ子<sup>1</sup>・鎌谷直之<sup>1</sup>
14. ピロリン酸モノエステルを用いて増幅したヒト $\gamma\delta$ 型T細胞の基礎的検討  
（<sup>1</sup> 第二病院外科，<sup>2</sup> 微生物学免疫学）村山 実<sup>1</sup>・八木淳二<sup>2</sup>・今西健一<sup>2</sup>・  
小川健治<sup>1</sup>・梶原哲郎<sup>1</sup>・内山竹彦<sup>2</sup>  
座長 今西健一（微生物学免疫学）
15. がんに対する活性化自己リンパ球移入療法の経験  
（第二病院外科）小川健治・出口義雄・勝部隆男・梶原哲郎
16. CD8<sup>+</sup>T細胞におけるCD56抗原の誘導  
（第二病院外科）出口義雄・小川健治・梶原哲郎

## 1. HCV感染におけるCD81分子の役割について （消化器内科）

佐々木美奈・山内克巳・鈴木智彦・  
春田郁子・中西敏己・古川隆二・  
高津和子・徳重克年・林 直諒

〔目的〕HCVは肝細胞に対し高親和性を示すが同時に他の細胞にもある条件下で感染する可能性があることが明らかにされている。最近HCV感染の際、細胞表面レセプターとしてのCD81分子が注目されているが未だ不明な点が多い。今回我々は*in vitro*でのHCV結合性や感染性について解析した。

〔方法〕細胞株は肝細胞由来のhuH7とHepG2および大腸癌由来のCw2とHT29を用いた。CD81の発現性は抗ヒトCD81-PEと反応させFACS scanで解析した。またHCV結合性は各細胞株に対しHCV陽性血清を各々10, 1, 0.1  $\mu\text{l}/\text{ml}$  入れ水中で反応させ細胞を洗いHCV-RNAを単離させアンプリコア定量法で測定した。予めhuH7に抗ヒトCD81抗体を反応させCD81をブロックした後HCV陽性血清を入れ同様にRNA量を測定した。

〔結果〕CD81の発現はhuH7やCw2は陽性、HepG2は陰性であった。HCVの結合性はhuH7とHepG2は、Cw2とHT29に比べ結合するHCV-RNAは有意に高かった。huH7とHCVの結合は抗ヒトCD81抗体で阻止できなかった。

〔結語〕HCVの細胞との結合性はCD81発現性とは無関係で、むしろCD81以外に肝細胞に特異的な何ら

かの分子がHCV結合に関与していると考えられた。

## 2. 強皮症発症要因としてのマイクロキメリズムの検討

（膠原病リウマチ痛風センター）

市川奈緒美・小竹 茂・箱田雅之・  
樋上謙士・鎌谷直之

〔目的〕慢性の移植片対宿主病（GVHD）の臨床症状や病理組織所見が強皮症に類似する点があり、また妊娠歴と強皮症発症との関連も示唆されていることから、妊娠時に母体中に入り込み、長期に残存する胎児細胞（マイクロキメリズム）と強皮症発症との関連が欧米で注目されている。今回私達は日本人における強皮症患者のマイクロキメリズムを検討する目的でY染色体特異的配列を高感度に検出する系の確立を試みた。

〔方法〕男性ゲノムDNAと女性ゲノムDNAを種々の割合で混合し、Y染色体特異的遺伝子を指標としたnested PCRを行なった。

〔結果および結論〕 $10^7$ 個に数個の割合（ $10^{-5}\mu\text{g}/\text{ml}$ ）で男性細胞を検出できる系を確立した。この方法を用いることにより、強皮症患者におけるマイクロキメリズムの検討が可能であると考えられた。

## 3. 骨髄移植とFlt.3 ligandを併用した臓器移植後microchimerismの維持に関する研究

（循環器外科）

津田泰利・川合明彦・小柳 仁

〔目的〕Microchimerismはドナー特異的免疫寛容に